

1 研究の優れている点

- 課題性がある。
 - ・ 「**振り返り**」の重視
- 客観性がある。
 - ・ 「**ベースライン期**」と「**指導期**」
 - ・ **活動回数等の増加又は減少**
- 実用性がある。
 - ・ **ワークシートの活用**
 - ・ **学部別の実践例**

2 研究との関連事項（1）

平成27年度 成果

課題解決の過程を肯定的に評価。
→ **キャリア発達が高まる。**

ポイント

- 将来の目指す姿の
明確化
- 課題解決の過程の
評価の工夫

平成28年度
**「振り返り」
に基づく
目標設定**

参考：平成27年度広島県特別支援学校教育研究会第2グループ（平成27年）：『障害のある幼児児童生徒に対するキャリア教育の推進について～課題解決の過程の肯定的な評価の実施を通して～』

2 研究との関連事項（2）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、
自己のキャリア形成の方向性と関
連付けながら、見通しを持って粘
り強く取り組み、**自己の学習活動
を振り返って次につなげる。**

引用：中央教育審議会（平成28年）：『次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ』

2 研究との関連事項（3）

主体性を高める「多様・多様な評価」

- 肯定的な評価・即時評価
- 実物等を見せながらの振り返りと
学習内容の評価
- 振り返りシート・ファイルの活用
- 指導者や友だちによる多様な評価
- 保護者等による多重の評価

参考：竹野政彦・矢野清英（平成26年）：『知的障害のある児童生徒に対する授業改善の研究～一かかって勤めるための課題分析を通して～』『広島県立教育センター 研究紀要 第41号』

3 今後に期待すること（1）

学習評価の工夫

- 子供たちの学習の成果を的確
に捉え、指導の改善を図る。
- 学びの過程と評価の場面との
関係性を明確にする。

参考：文部科学省（平成28年）：『次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ』

3 今後に期待すること（2）

人から感謝される経験ができる 学習活動の設定

キャリア発達の促進

次への意欲、自己肯定感

人の役に立つ、感謝される経験

参考：尾崎祐三・塚池一文・全国特別支援学校知的障害教育校長会（2013）：『知的障害特別支援学校のキャリア教育の手引き 実践編 一中小高の系統性のある実践一』ジヤニス教育新社